

特別展

さと
氷見の八景

— 歴史の中の景勝地 —



山本 永暉「有磯八景」

令和3年2月26日(金)~3月21日(日)

氷見市立博物館 特別展示室 午前9時~午後5時

休館日 月曜日(3月1日、3月8日、3月15日)

資料解説会 2月27日(土) 午後2時より〈参加自由〉

入館にあたっては、新型コロナウイルス感染防止対策にご協力ください。
また、状況により内容が変更・中止になる場合があります。ご了承ください。

観覧
無料

八景から見る景勝地

ある地域で特にすぐれた八か所の景色を八景といい、中国宋代の画家宋迪（そうてき）が、中国の景勝地として名高い瀟湘（しょうしょう）周辺を描いた八枚の絵画に由来する、と伝えられています。瀟湘八景の絵画や詩は、鎌倉時代には日本へ伝わり、その影響を受けて、中国の瀟湘の地を題材とした瀟湘八景が日本でも多く描かれました。その一方で、特に江戸時代以降には八景の題材を日本国内にもとめ、瀟湘八景に倣って地域の八つの景勝地を取り上げる作品が数多く描かれるようになります。その中でも近江八景、南都八景、金沢八景、松島八景などはよく知られています。

氷見地域でも、古くは江戸から昭和期にかけて灘浦八景、有磯八景、加納八景などさまざまな氷見の景勝地が題材としてとりあげられてきました。そこで取り上げられた氷見地域の八景の中には、現在でも景勝地として市民や観光客に親しまれ続けている場所がある一方で、すでに忘れ去られている場所もあります。

本特別展では、氷見地域を題材にしたさまざまな氷見の八景を通じて、その場所が景勝地としてどのように取り上げられたのか、その後どう移り変わったのかを紹介します。



阿尾城跡



義経岩(旧氷見郡)



布勢の円山



唐島

氷見市立博物館

〒935-0016 富山県氷見市本町4番9号
TEL.0766-74-8231 FAX.0766-30-7188
E-mail : hakubutsukan@city.himi.lg.jp
U R L : <https://www.city.himi.toyama.jp/section/museum/>

●交通機関

鉄 道 / JR 氷見線氷見駅下車、北西へ500m 徒歩7分。

バ ス / 高岡駅前から加越能交通バス氷見方面行、「氷見市民会館前」下車、徒歩1分。

自動車 / 能越自動車道氷見インターから東に3km。

●氷見市立博物館は、氷見市教育文化センター内にあります。

